学校だより
令和5年度　3月号
なつのくも
第175号（R6．3．1）
練馬区立光が丘夏の雲小学校
本校ホームページ新QRコードです。スマホなどからも閲覧できます。ご活用ください。

上の友情

校長　宮林　伸之

先日、全校朝会で子供たちに次のことを話しました。

皆さんは、友達というと誰を思い浮かべますか。
多くの友達を思い浮かべる人もいれば、一人の友達を思い浮かべる人もいるかもしれません。私は、「友達」と言うと…一人思い浮かびます。なかなか会えませんが、困ったことがあるとなんでも相談できる友達です。その友達といるとほっとします。そして安心できる存在です。
このように友達と友達の間で生まれる気持ちや感情を友情と言います。
この友情について先人は次のように述べています。
「友情には、上・中・下がある。
下の友情は、物やお金だけでつながった関係。
中の友情は、仲が良かったり、世話をしたりする関係。
そして、
上の友情は、心から相手のことを考えて行動し、一緒に成長できる関係。」
と…心から相手のことを考えて行動するとは、相手が悪いことをしていれば、それをとめて改めさせることだと思います。古い言葉に「その人を知るには、その友を見よ」とあります。
その人のことがわらないときは、付き合っている友達を見れば、その人のことがわかるという言葉です。
それだけ友達とは大切な存在です。皆さんには、この夏の雲小学校で「上の友情」で結ばれた友達を作ってくれたら嬉しいと思っています。

今年も、６年生の巣立ちの日、卒業式が近づいてきました。
卒業関連行事の一環として、２月２１日には、感謝の会が開かれました。６年生が保護者の皆様、教職員の前で、将来の夢を寸劇で発表したり、合奏「リメンバーミー」「アイドル」を演奏したりして感謝の気持ちを伝えました。そしてサプライズとして、子供たち一人一人から保護者へ書いた手紙が手渡されました。それを受け取る保護者の皆様の中には、目に涙を浮かべながら大切に大切に手紙を読む方がいらっしゃいました。そんな姿に触れ、私は胸が熱くなりました。終わりは、代表児童の感謝の言葉です。保護者や教職員へ感謝の言葉を述べた後、体の向きを変え、６年間共に生活してきた友達へ語り始めるのです。代表児童が、みんなへ深い思いを伝える姿…そしてその姿をじっと見つめ、一言一言発せられる言葉に耳を澄ます６年生。私はその姿に触れ、一幅の絵を観るような思いがしました。６年間積み重ねてきた友情の深さを感じました。感謝の会は、感謝の思いがあふれる素晴らしい会となりました。

現在、６年生が書いた卒業文集の原稿に目を通しています。そこには、６年間の思い出、人との関わりで学んだこと、行事への取組を通して自分が成長したこと、将来の夢、そして、掛け替えのない友達と友情を育んだこと…が綴られています。
６年生は最高学年として、時には自分のしたいことより全校にかかわる仕事を優先したり、時にはプレッシャーに押しつぶされそうな気持ちに打ち克ち、自分の役割を果たそうと努力したりする姿が見られました。このようなときに必ずそばで支えていたのが友達だったようです。６年生は、まさに「上の友情」を育み、友達と切磋琢磨しながらよりよい光が丘夏の雲小学校を創り上げてくれたのです。とても感謝しています。６年生と共に過ごすことができる残り少ない日々を大切にしていきたいと思います。

最後に地域、保護者の皆様には今年度の教育活動にご理解、ご協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。